

13 掬鹿谷・松ノ下遺跡

調査地 加東郡東条町掬鹿谷字延引
 調査期間 2000年10月 8日から
 10月 8日まで
 原因 老朽ため池改修工事に係る仮設道路工事
 原因者 兵庫県社土地改良事務所
 調査協力 重機提供 - (株)向井建設
 調査面積 約18m²

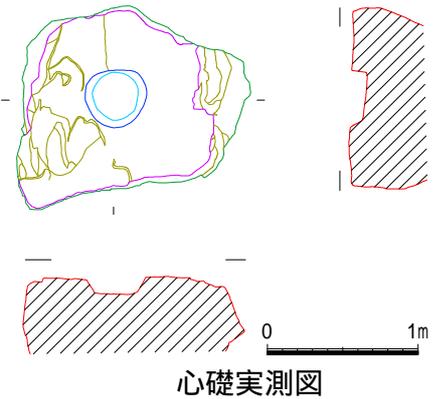


位置図

はじめに

掬鹿谷地区における老朽ため池改修工事を実施するにあたり、仮設道路を設置するが、「埋蔵文化財への影響はないのか」という照会が兵庫県社土地改良事務所よりあり、現状では判断できないため仮設道路予定地を試掘・確認することで、道路盛土等の出来高を決定することとして、10月8日に試掘を実施した。

調査地は、標高90mの河岸段丘面にあたり、比高96mで北側に広がる段丘面には奈良時代に創建されるとされている掬鹿廃寺の存在が知られ、薬師堂の傍らには凝灰岩製の心礎が保存されている。また、西側の山塊には東条谷を見下ろすかたちで天神山城が築かれているほか、掬鹿寺周辺は中世の面影を現在によく留めている。



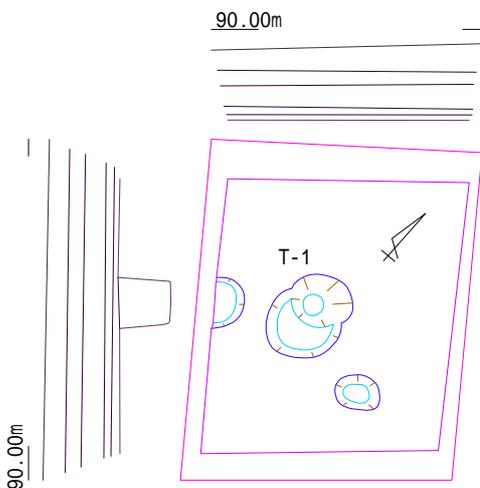
心礎実測図

調査の概要

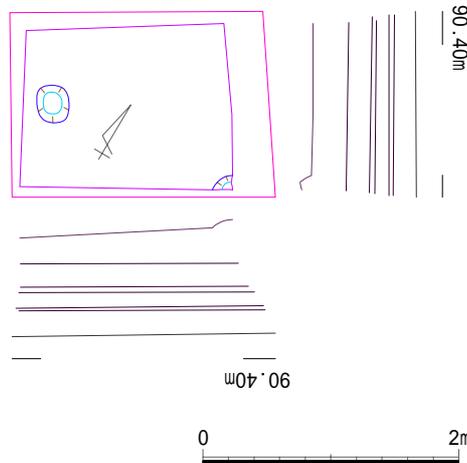
仮設道路敷内に、2m前後のグリッド3カ所を設定した。T-1・-2の土層は、耕作土・床土・旧耕作土・旧床土・1～2層の砂質土では礫混じりの地山面に達する。T-3では床土直下から掘り込まれ攪乱がみられる。遺構はそれぞれのグリッドにおいて径20cm程度のピットが検出されており、遺構密度は密である。

T-1のP-1からは古墳時代後期の坏などが出土し、今回の調査において唯一時期が確定できる遺構である。

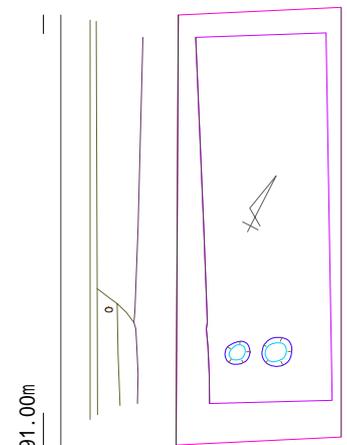
T-1



T-2



T-3

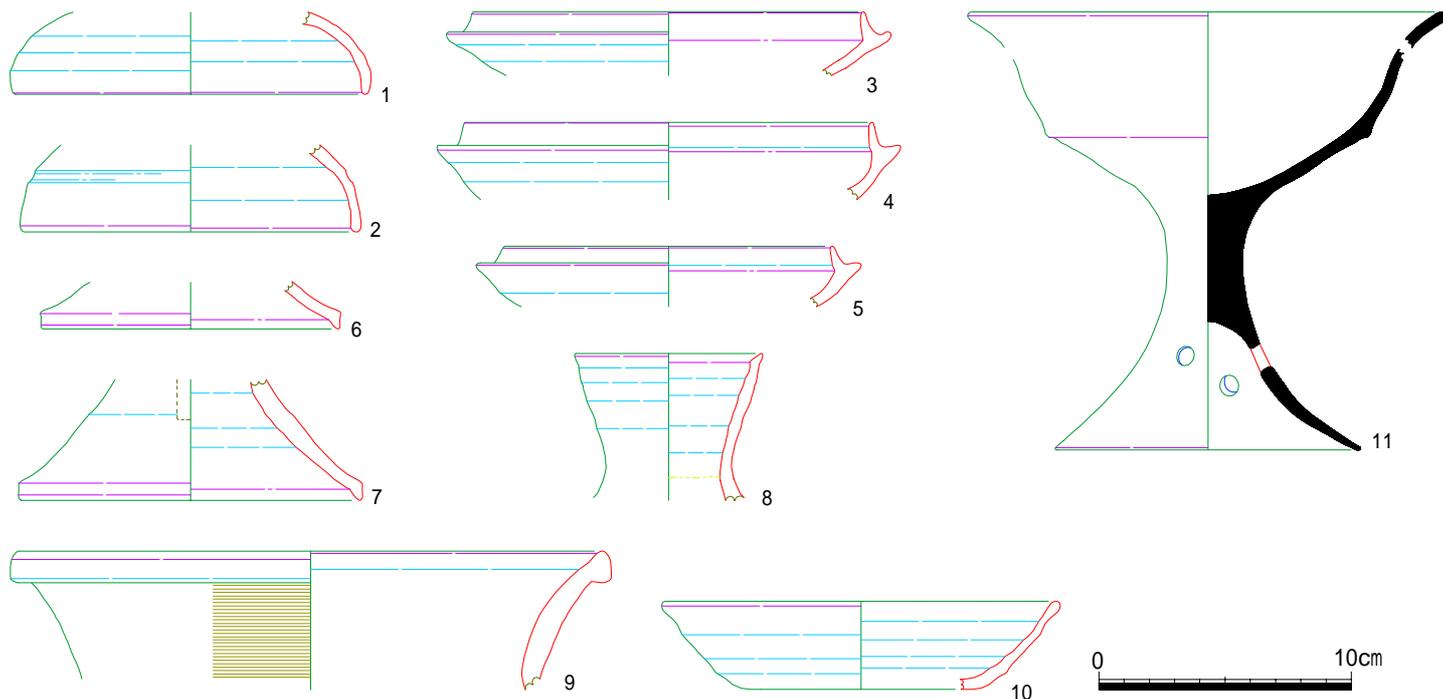


グリッド平面・断面図

出土遺物は古墳時代後期のものが主流である。須恵器では坏蓋(1・2)、坏身(3～5)、高坏(6・7)、壺(8・9)のほか、図化しえなかった甕などがあり、室町時代の所産である椀(10)などもみられる。また、弥生時代後期の所産であろう高坏(11)がみられるほか、中世の所産であろう土師器の小皿・土埴などがコンテナケ - スで1箱分が出土している。

まとめ

今回の確認調査は、小規模なものであったが、遺構・遺物の検出密度は高く、今後、竪穴住居址をはじめとした古墳時代の集落が確認されるものと理解される。また、この遺跡を維持していくなかで、奈良時代の所産であろう埴輪を生み出す原動力が形成されてくるものといえ、小規模とはいえ、貴重な確認調査であったといえる。



出土遺物実測図

番号	種別	器種	遺構名	口径	器高	底径	焼成	色調 - 外	色名1	色調 - 内	色名2	成形および調整	備考	残存率
1	須恵器	坏蓋	T-1	13.9	3.2		良好	5B7/1	明青灰色	5B7/1	明青灰色	ヨコナデ		15
2	須恵器	坏蓋	T-1	13	3.4		良好	N7/	灰白色	N6/	灰色	ヨコナデ		10
3	須恵器	坏身	T-1 P-1	15.4	2.5		良好	N7/	灰白色	N7/	灰白色	ヨコナデ		14
4	須恵器	坏身	T-1 P-1	16	3		良好	N7/	灰白色	N7/	灰白色	ヨコナデ		14
5	須恵器	坏身	T-1	12.9	2.3		良好	N8/	灰白色	N7/	灰白色	ヨコナデ		7
6	須恵器	高坏(脚部)	T-1		1.8	11.6	良好	N7/	灰白色	N7/	灰白色	ヨコナデ		14
7	須恵器	高坏	T-1 P-1		4.7	13.4	良好	N7/	灰白色	N7/	灰白色	ヨコナデ	すかし孔が見られるが個数は不明	13
8	須恵器	壺	T-1 P-1	7.3	5.8		良好	5B5/1	青灰色	5B5/1	青灰色	ヨコナデ		13
9	須恵器	壺(口縁部)	T-1	23	5.4		良好	N7/	灰白色	N7/	灰白色	外面 - 口縁部ヨコナデ 頸部カキ目 内面 - ヨコナデ		9
10	須恵器	椀	T-2	15.5	3.4	9.5	良好	N6/ ~ N4/	灰色	N7/	灰白色	ヨコナデ		5
11	弥生土器	高坏	T-3	18.5	17.3	11.9	不良	10YR8/2 ~ 10YR2/1	灰白色 ~ 黒	10YR8/2	灰白色			70

遺物観察表

